

船舶事故調査報告書

平成28年9月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（棧橋）及び乗揚
発生日時	平成27年12月3日 05時21分ごろ（1件目の事故） 平成27年12月3日 05時22分ごろ（2件目の事故）
発生場所	沖縄県うるま市ホワイトビーチ掃海艇棧橋 （1件目の事故） 勝連埼灯台から真方位287° 800m付近 （概位 北緯26° 17.9′ 東経127° 54.5′） （2件目の事故） 勝連埼灯台から真方位280° 750m付近 （概位 北緯26° 17.9′ 東経127° 54.5′）
事故の概要	（1件目の事故） 掃海艇あおしまは、離棧操船中、棧橋に衝突した。 あおしまは、右舷船尾防舷材に破損を生じた。 （2件目の事故） あおしまは、棧橋に衝突したのち、乗り揚げた。 あおしまは、右舷推進器翼に曲損等を生じた。
事故調査の経過	平成27年12月7日、調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報	
船種船名、総トン数	掃海艇 あおしま、510トン（排水量）
船舶番号、船舶所有者等	689（艦船番号）、防衛省
乗組員等に関する情報	艇長、運航1級（海上自衛隊内資格）
負傷者	なし
損傷	本艇 右舷船尾防舷材に破損、右舷舵の脱落、右舷推進器翼に曲損等 棧橋 なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北西、風速 約7.5m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期 日出時刻：06時59分ごろ 沖縄県うるま市には、本事故当時、波浪注意報が発表されていた。
事故の経過	（1件目の事故） 本艇は、係留場所移動の目的で、右舷着けで係留していたホワイトビーチ掃海艇棧橋から離棧を開始した。 艇長は、バウスラストを左にかけ、両舷機を使用して右舷船尾部を掃海艇棧橋から離し、両舷機を半速力後進にかけ、バウスラストを中立としたところ、船尾部が後方の潜水艦に接近しているとの報告を受けた。

	<p>本艇は、艇長が左回頭して掃海艇棧橋から離れることとし、両舷機を半速力前進にかけ、左舵一杯を取り、左回頭を開始したところ、右舷船尾部が同棧橋に衝突した。</p> <p>艇長は、本艇を掃海艇棧橋から約15m平行移動させた後、船首尾線が同棧橋線に対して約20°の角度となるように船尾を離し、両舷機を後進にかけ、棧橋から離れるつもりであったが、本事故後、同棧橋に衝突した動揺で同棧橋から離れることのみを考え、着棧して損傷状況等を確認しなかった。</p> <p>(2件目の事故)</p> <p>本艇は、右舷船尾部が掃海艇棧橋に衝突した後、同棧橋を離れようと左回頭を続けていたところ、同棧橋北方の浅瀬に乗り揚げた。</p> <p>本艇は、両舷機を停止した後、両舷機を微速力前進にかけ、その場を離れた。</p> <p>本艇の喫水は、船首約2.68m、船尾約3.36mであった。</p>
<p>分析</p>	<p>(1件目の事故)</p> <p>本艇は、後進して離棧操船中、船尾部が後方の潜水艦に接近した際、艇長が、掃海艇棧橋に向けて約20°の角度となった態勢から左回頭を行ったことから、右舷船尾部が掃海艇棧橋と衝突したものと考えられる。</p> <p>(2件目の事故)</p> <p>本艇は、掃海艇棧橋に衝突したのち、艇長が、同棧橋への衝突で動揺したことから、同棧橋北方の浅瀬に向けて左回頭を続け、同浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>(1件目の事故)</p> <p>本事故は、夜間、本艇が、後進して離棧作業中、船尾部が後方の潜水艦に接近した際、艇長が、掃海艇棧橋に向けて約20°の角度となった態勢から左回頭を行ったため、右舷船尾部が掃海艇棧橋に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p> <p>(2件目の事故)</p> <p>本事故は、夜間、艇長が、掃海艇棧橋への衝突で動揺したため、本艇が、同棧橋北方の浅瀬に向けて左回頭を続け、同浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 操船者は、船舶の操縦性能を考慮した上で、操船を適切に行うこと。